



HYPER PLUS

コピーガードの解除

UsbServer Ver1.0
UsbSearch Ver1.0

データの取り出し

HYPER PLUSはコピーガード機能があります。
USBメモリ内の編集は可能ですが、外部に取り出すことができません。

■コピーガードUSBメモリからデータを取り出す方法

1. 解除コード設定を使う

管理ソフトUsbManageの「起動設定」タブに解除コード設定があります。コピーガードを解除したいパソコンにUSBと同じ解除コードを設定するとファイルコピー禁止が解除されます。解除されるのは「禁止設定」タブで設定されている、ファイルコピー禁止や印刷禁止などの項目です。ユーザーパスワードの項目は解除されません。パソコンに解除コードを設定する場合は非保護領域側にあるsetupフォルダ内のUsbQuickStart_Admin.exeを使います。起動すると解除コード入力欄にUSBメモリと同じ解除コードを設定して下さい。

※ UsbQuickStart_Adminのセットアップは管理者実行権が必要です。制限アカウント(標準ユーザー)の場合は実行ができません。

2. UsbServerを使う

社内ネットワークのどこかにUsbServerを設定し起動させておきます。実行はWindowsServerは必要なくネットワークに接続されている端末PCで動作します。

UsbServerとアクセスできる社内ネットワーク環境でコピーガードUSB(HYPER PLUS)を利用した場合、コピーガードを解除する事ができます。

外出先などでは社内ネットワークに直接アクセスができないのでコピーガードは解除されません。

この設定には、USBメモリに設定されている管理パスワードが必要です。

管理ソフトUsbManagedの[UsbServer]タブで

“UsbServerを使う”という設定になっていた場合、UsbStartを実行するとUsbServerを探します。ネットワークが複雑な場合やUsbServerが複数起動している場合は正しくアクセスができませんのでUsbServerを起動しているパソコンのIPアドレスを設定して下さい。

UsbServerのIPアドレスを設定する場合、IP番号を自動取得にしているパソコンの場合IP番号が変わってしまうことがあります。UsbServerを起動するパソコンは固定のIPアドレスを設定して下さい。

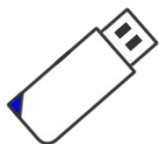
3. UsbManageでコピーガードを解除する

UsbManageの禁止設定タブで“ファイルコピーを禁止する”というチェックボックスをOFFにする事でデータを取り出す事ができます。

この場合、設定を元に戻して(ファイルコピー禁止をON)にしてから利用して下さい。

UsbQuickStart_Adminが実行できない、UsbServerも利用できない場合は、この管理ソフトを使った方法でデータを取り出して下さい。

コピーガードUSBからデータを取り出す方法



■解除コードを使う

1. UsbManangeでUSBに解除コードを設定する
2. setupフォルダにあるUsbQuickStart_Admin.exeでパソコンに解除コードを設定USBとパソコンの解除コードが合致しているとコピーガードは解除されます。



非保護領域setupフォルダ
UsbQuickStart_Admin.exe



UsbServer.exe

■UsbServerを使う

1. UsbManangeの[UsbServer]タブで“UsbServerを使う“に設定する
 2. 社内ネットワークにあるパソコンにUsbServerを起動する。
- UsbServerの設定メニュー→オプション→USBの管理パスワードを設定する。
UsbServerに設定されている管理パスワードとUSBに設定されている管理パスワードが合致している場合は、コピーガードが解除されます。



■コピーガードを一時的に解除する

管理ソフトUsbManageの[禁止設定]タブの“ファイルコピーを禁止する”というチェックボックスのチェックを外します。

データを取り出した後は再設定が必要です。

HYPER PLUSとUsbServer

HYPER PLUS(ハイパープラス)の機能

HYPER PLUSはコピーガード機能をもったセキュリティUSBメモリです。コピー防止機能や印刷の禁止等の設定を付属管理ソフトのチェックボックスをONにするだけで自由に制御できます。UsbServerと組み合わせた利用では、利用場所に応じたセキュリティ機能が働きます。

●HYPER PLUSの機能

HYPER PLUSは情報漏えい防止や紛失リスクに備えるセキュリティUSBメモリです。セキュリティを強化すると使い勝手が悪くなるという半面がありますが、HYPER PLUSでは職場から持ち出した場合に制限をかける事ができます。

職場が自宅などの利用場所の判定はUsbServerにアクセスできるかどうかで判断ができます。パソコンには利用場所に応じてIP番号が割り振られていますが、職場で利用するパソコンにつけられたローカルアドレスのIP番号は外部からは接続できないという事を利用しています。

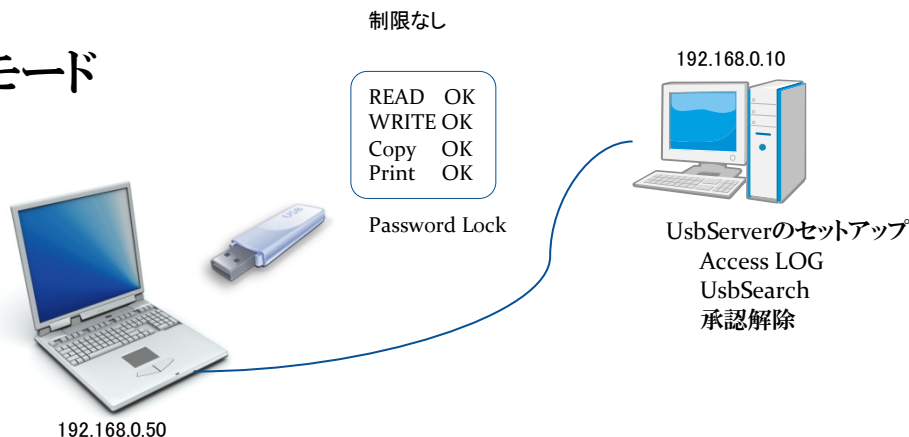
●UsbServerの機能

USBメモリの利用履歴の管理とUSBメモリに保存されたファイル名の一覧を管理しています。

ログの解析ソフト(UsbSearch)が付属していますので利用ランキングや探しているファイルを検索する事ができます。USBメモリにはパスワードがかかりますので紛失した場合にも、拾った人が中を確認する事はできません。

※過去の履歴も管理されていますので持ち出し禁止ファイルが保存されていないかをチェックする事もできます。

職場モード



外部モード (ノートパソコンやUSBメモリを持ち出した場合)



※1) UsbServerは別売になります。UsbServerにはログ解析ソフトUsbSearchが含まれています。

UsbServerのセットアップ



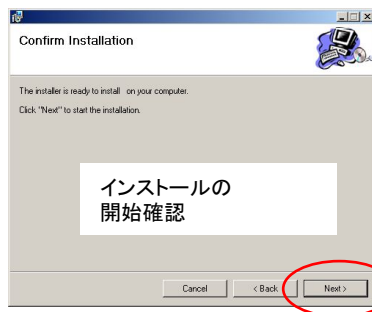
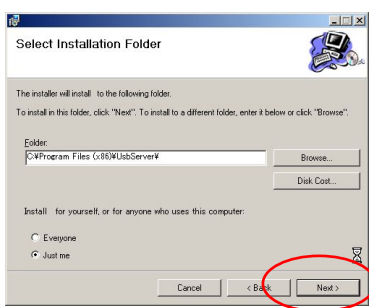
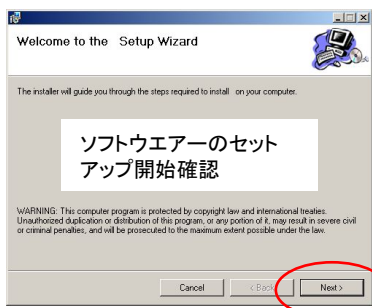
保護領域に切り替える

セットアッププログラム

UsbStartを実行して保護領域に切り替えます。
保護領域には¥TOOL¥UsbServer¥フォルダに
Installアイコンがありますのでクリックしてセッ
アップを行って下さい。



全てNextをクリックして進んで下さい。



Hyper PLUSの保護領域¥TOOL¥UsbServerにUsbServerのセットアッププログラムがあります。
UsbServerをセットアップするパソコンでセットアップを行って下さい。

■UsbServerのセットアップに適したパソコン

UsbServerはログの収集を行います。セットアップされるパソコンのハードディスクにはLOG
ファイルを保存する若干の空き容量が必要です。Cドライブの容量が少ない場合は、
C:¥UsbServerを他のドライブへ移動して利用してもかまいません。LOGデータはUsbServerの
起動したフォルダ直下のLOGフォルダに生成されます。usbServerはHYPER PLUSが利用さ
れる場合のみに動作を行うソフトです。
特に高い能力のPCは必要ありません。

1. 同じネットワーク内にある事
2. 通信ポート(初期:30112)がファイアーウォールなどで遮断されていない事
承認コードは、指定された通信ポートで通信を行います。このポート番号が利用者側パソコン
またはサーバー側でファイアーウォール設定等で遮断されている場合は通信ができません。
3. USB利用時間帯に電源が入っているPC
4. 承認コードはHYPER PLUSに設定している管理者パスワード(初期: admin)を設定して下さい。

セットアップ場所の確認

※変更の必要はありません。

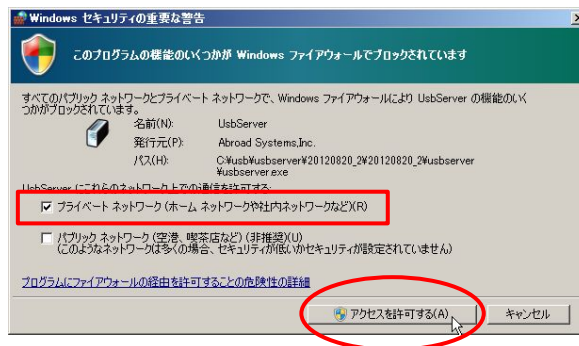
LOGフォルダは
C:¥UsbServer/LOGに作成されます。

※ドライブに十分な空き容量がない場
合は他のフォルダに変更ができます。
※Program Filesフォルダはvista以降
権限の問題でLOGフォルダやログファイ
ルを作る事ができません。
※システムドライブをCドライブから変更
されている場合は、変更されたドライ
ブが表示されます。

Windowsファイアーウォールの設定

初めてUsbServerを実行したときにはWindowsファイアーウォールの許可画面が表示されます。

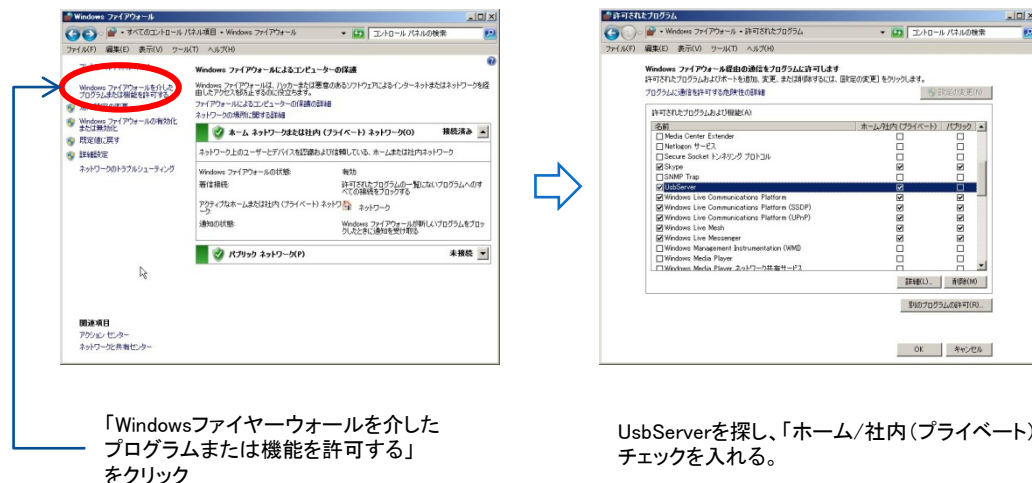
ファイアーウォールは利用者に許可なく通信を行うソフトを遮断する仕組みです。
UsbServerを利用するにはプライベートネットワークに対してアクセスを許可して下さい。



※他社製のファイアーウォールを利用している場合は、ご利用ファイアーウォールの操作手順に従ってUsbServerの通信許可を行って下さい。

プライベートネットワーク(ホームネットワークや社内ネットワークなど)にチェックが入っている事を確認して「アクセスを許可する」をクリックして下さい。

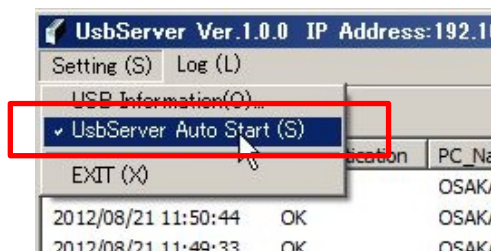
誤って「キャンセル」をした場合は、コントロールパネル→Windowsファイアーウォールより設定を行って下さい。



「Windowsファイアーウォールを介したプログラムまたは機能の許可」をクリック

UsbServerを探し、「ホーム/社内(プライベート)」にチェックを入れる。

UsbServerの画面



■自動起動の設定

Settingメニューの「UseServer Auto Start」にチェックが入っている場合は、次回から自動起動します。自動起動すると右下のタスクバーに格納されます。

■IP番号の確認

UsbServerが動作しているパソコンのIP番号が表示されています。複数IPが設定されている場合は最初のIP番号を表示します。

DATE	Authentication	PC_Name	Login_Name	USB_Model	USB_Number	size	Volume_Name
2012/08/21 11:53:16	OK	OSAKA_WIN7-PC	abroad	USB Device	AX20120628060	4046837760	HYPER-1
2012/08/21 11:50:44	OK	OSAKA_WIN7-PC	abroad	USB Device	AX20120628060	4046837760	USBENTER
2012/08/21 11:49:33	OK	OSAKA_WIN7-PC	abroad	USB Device	AX20120628060	4046837760	USBENTER
2012/08/21 11:48:02	OK	OSAKA_WIN7-PC	abroad	USB Device	AX20120628060	4046837760	USBENTER
2012/08/21 11:47:27	NG	OSAKA_WIN7-PC	abroad	USB Device	AX20120628060	4046837760	USBENTER
2012/08/21 11:47:11	NG	OSAKA_WIN7-PC	abroad	USB Device	AX20120628060	4046837760	USBENTER
2012/08/21 11:44:55	OK	OSAKA_WIN7-PC	abroad	USB Device	AX20120628060	4046837760	USBENTER

利用日付、時間

パスワード承認
OK...一致
NG...不一致

利用パソコン名

利用ユーザー名

USBメモリの個体情報

HYPER PLUSの非保護領域に
付けられているボリューム名

パスワード承認(Authentication)がNGの場合

[Setting]→[USB Information]のパスワード設定がHYPER PLUSで設定されている管理パスワードとUsbServerで設定したパスワードが違います。USBメモリ側またはUsbServerどちらかが間違っていますのでご確認ください。
OK又はNGが表示される場合は、通信が正しくできていますのでファイアウォール、ポート番号、IP番号の設定は正しく設定ができています。

表示されている内容はLOGフォルダのaccess.logに記録されています。access.logはメニュー[Log]→[UsbSearch]で検索や分析ができます。

IP番号の設定

UsbServerをセットアップするパソコンのIP番号は手動で固定値を設定して下さい。自動取得になっているとIP番号が変わってしまいHYPER PLUSからアクセスできなくなります。

IP番号を固定値で設定する場合は、IP番号を自動配布するDHCPの配布範囲を避け重複しない番号を設定して下さい。詳しくはネットワーク管理者にご相談下さい。

UsbServer

HYPER PLUS管理用のサーバーソフトです。同一企業内であれば複数のUsbServerをセットアップできます。

主な機能

■アクセスログの収集

アクセスログを記録する場合には、HYPER PLUSの設定で「UsbServerを利用する」を設定します。「UsbServerを利用する」の設定は各HYPER PLUSによります。常に外部で利用するHYPER PLUSやUsbServerやUsbSearchの機能が必要のない場合は、個別に「UsbServerを使わない」にする事ができます。

アクセスログでは日時や利用PC名、利用アカウント名、USBメモリ情報がアクセスログとしてCSVファイルとして記録されます。

■記録されているファイルの収集

「UsbServerにファイル一覧を送信」を選んだ場合は保存されているファイル名一覧をUsbServerが受け取りログファイルを書き込みます。

この機能は、USBメモリに何が記録されていたのかを管理する為です。探しているファイルを見つけ出す事や紛失したUSBメモリに何が保存されていたのか？を調べる事ができます。ログファイルは個別のUSBメモリ毎に履歴を管理していますので過去のファイル一覧も調べる事ができます。

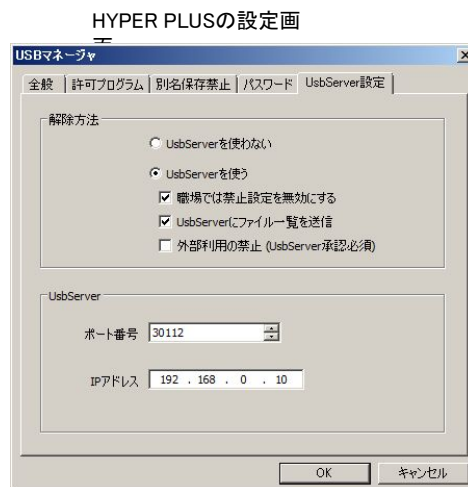
■ファイル一覧の更新タイミング

USBメモリを社内です利用したときにファイル一覧を送信します。この為、その時点でのファイル一覧が記録されますが、ファイルを追加や削除をした場合は、リアルタイムに記録されず、次回UsbServerにアクセスしたときに登録されます。リアルタイムでの収集は行っていないのでタイムラグがあります。

■UsbServerの複数設置

UsbServerは同一法人内であれば、複数のUsbServerを設置できます。

例えば、各部署単位で管理が必要な場合や営業所利用などです。ただし、UsbServerはコピー防止のコンテンツガードUSBメモリで作られている為、セットアップには必ずUsbServerの本体キーが必要です。

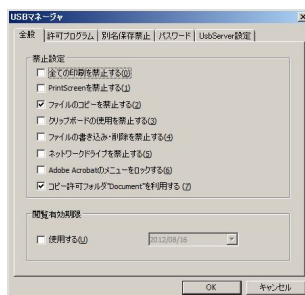


用途別で設定

HYPER PLUSでは個別に制限を設定する事ができます。外部利用禁止のUSBメモリやコピーガードなどの許可をして利用など用途別に様々なUSBメモリを作る事ができます。

用途別に設定をかえる事ができます

- データ受け渡し用
- 持ち出し禁止用
- 一般利用用
- 重要データ保管用



UsbServerを使わない

閲覧用

閲覧用、情報漏えい防止
職場、外出先に関わらず
コピー禁止

UsbServerを使う

**パスワード付き
USBメモリ**

利用パスワードのみ
制限なし、読み書き自由

社内専用

持ち出し禁止用
外部では利用できない

**制限付き
持出許可**

社外も許可
コピー禁止設定



PC



UsbServer

＜ログ管理＞
使用日時記録
保存内容記録
ランキング
ファイル検索

HYPER PLUS(ハイパープラス) とUsbServer

HYPER PLUS(ハイパープラス)の機能

HYPER PLUSはコピーガード機能をもったセキュリティーUSBメモリです。コピー防止機能や印刷の禁止等の設定を付属管理ソフトのチェックボックスをONにするだけで自由に制御できます。UsbServer(※1)と組み合わせた利用では、利用場所に応じたセキュリティー機能が働きます。

●HYPER PLUSの機能

HYPER PLUSは情報漏えい防止や紛失リスクに備えるセキュリティーUSBメモリです。セキュリティーを強化すると使い勝手が悪くなるという半面がありますが、HYPER PLUSでは職場から持ち出した場合に制限をかける事ができます。

職場か自宅などの利用場所の判定はUsbServerにアクセスできるかどうかで判断ができます。パソコンには利用場所に応じてIP番号が割り振られていますが、職場で利用するパソコンにつけられたローカルアドレスのIP番号は外部からは接続できないという事を利用しています。

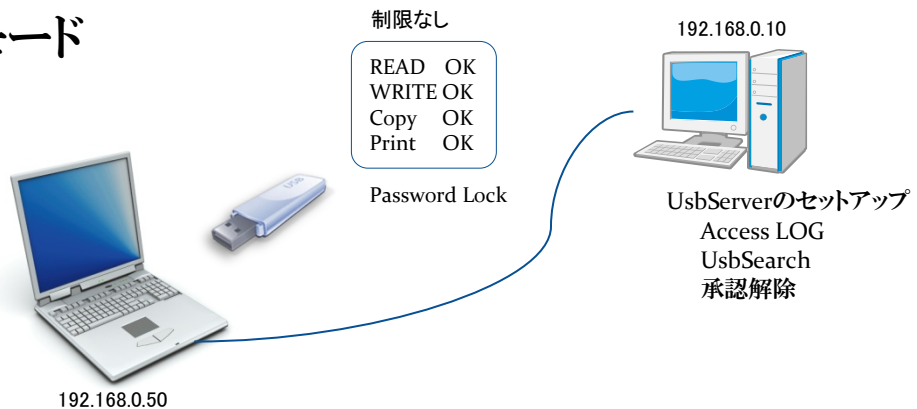
●UsbServer(※1)の機能

USBメモリの利用履歴の管理とUSBメモリに保存されたファイル名の一覧を管理しています。

ログの解析ソフト(UsbSearch)が付属していますので利用ランキングや探しているファイルを検索する事ができます。USBメモリにはパスワードがかかりますので紛失した場合にも、拾った人が中を確認する事はできません。

※過去の履歴も管理されていますので持ち出し禁止ファイルが保存されていないかをチェックする事もできます。

職場モード

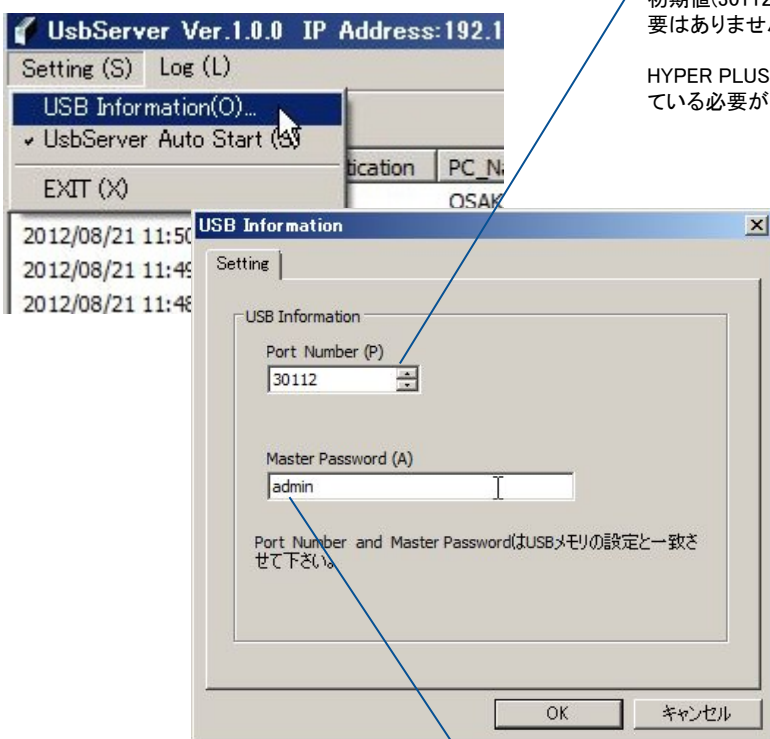


外部モード (ノートパソコンやUSBメモリを持ち出した場合)



※1) UsbServerは別売になります。UsbServerにはログ解析ソフトUsbSearchが含まれています。

Usb Infomation



■PORT Number

1024～65535までの値を設定します。
初期値(30112)で問題のない場合は変更する必要はありません。

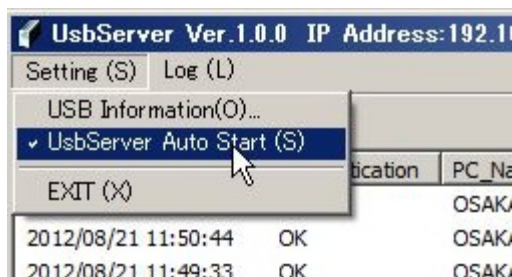
HYPER PLUS USBメモリのポート設定と一致している必要があります。

■Master Password

HYPER PLUSの管理パスワードを登録します。
大文字、小文字も含め完全一致させて下さい。

UsbServerの自動起動

■ UsbServerをパソコン起動時に自動実行する



パソコンを起動したときに、UsbServerを自動起動する場合は[Setting]→[UsbServer Auto Start]をクリックして下さい。

※レジストリに登録され次回、起動時にUsbServerを自動実行します。

自動実行を解除する場合は、もう一度[Setting]→[UsbServer Auto Start]をクリックして下さい。



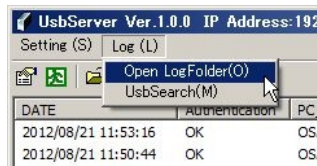
UsbServerを縮小化した場合は、画面右下のタスクレーのアイコンをクリックすると再表示します。

Windows7の画面

LOG管理

UsbServerで集められた情報は、UsbServerの本体プログラム下のLOGフォルダに保存されます。
例) C:\Program Files(x86)\UsbServer\LOG

■LOGフォルダの表示



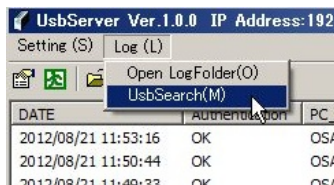
LOGフォルダはメニューの
[Log]→[Open LogFolder]で表示する
事が出来ます。

LOGファイルはCSV形式のテキストファイルですのでExcel等で参照ができます。
効率的に分析や検索が出来る様にUsbSearchというログ管理ソフトを起動する事ができます。

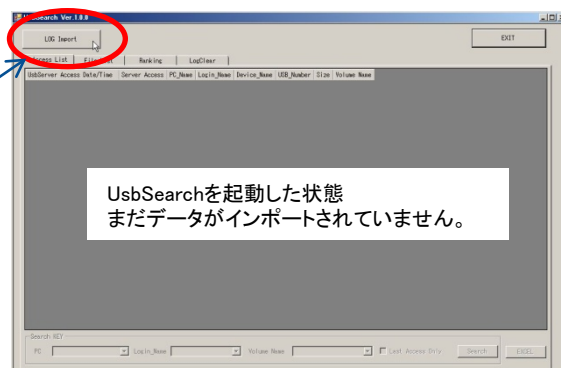
《アクセスログのファイル名》

ログにはアクセス履歴が保存されているAccess.logと各USBメモリのファイル一覧が登録されている
ファイルがあります。ファイル一覧が登録されているファイル名はUSBメモリの個体番号+日付になります。
個体番号+日時のファイル名で過去の履歴を含め全てが記録されています。

■LOGの解析 UsbServerの起動



UsbSearchの実行
[Log]→[UsbSearch]を選択します。



LOGインポートをクリック
してLOGファイルを読み込みます。

全てのデータを読み込むので
データ量が多い場合は時間がか
かります。

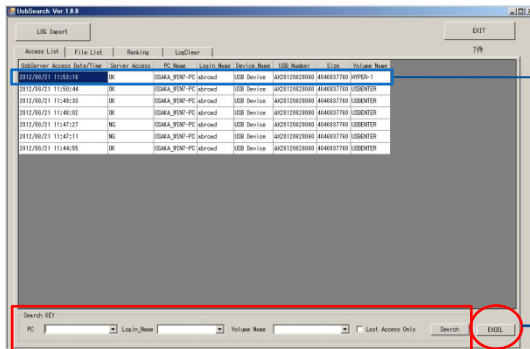
UsbSearchの使い方

UsbServerで集められた情報は、UsbServerの本体プログラム下のLOGフォルダに保存されます。

例) C:\Program Files(x86)\UsbServer\LOG

■Access List

HYPER PLUSの利用状況を一覧で表示します。Access.logの内容を表示します。PC名やログイン名、USBのボリューム名(非保護領域につけられているUSBボリューム名)で絞り込み表示ができます。



表示しているアクセスログをEXCELを起動し貼り付けます。
※EXCELがない場合はAccess.logを直接開く事もできます。

印刷などを行う場合に便利です。

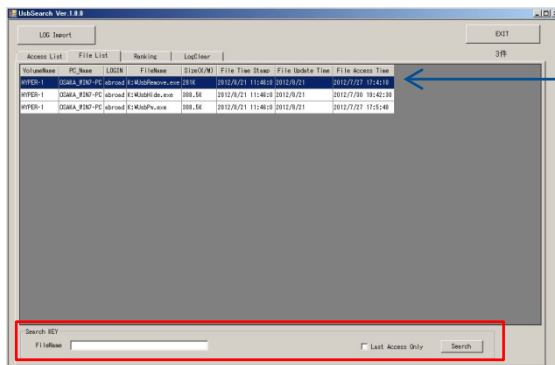
絞り込み検索

Last Access Onlyにチェックすると最終データのみを表示します。

■File List

USBメモリに保存されているファイル名一覧を表示します。

File Listは Access Listの明細行をダブルクリックすると、特定のUSBメモリのファイル名一覧だけが表示できます。



AccessListをダブルクリックすると
該当のUSBメモリのファイル一覧を表示します。

ファイル名一覧の取得タイミング

ファイル名一覧はHYPER PLUSが接続されUsbServerの承認後に行われます。

HYPER PLUS Ver4ではデータが保存された場合は次回の接続時にファイル一覧が取得されますがリアルタイム性はありません。

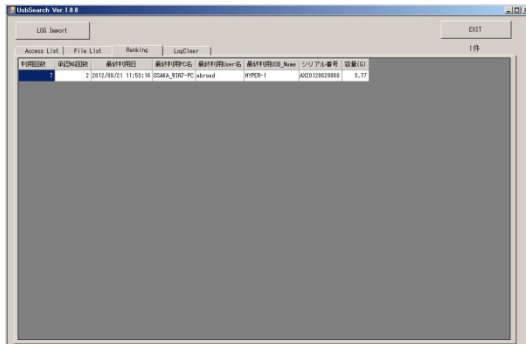
ファイル名で検索する事ができます。
(部分一致)

UsbSearchの使い方

UsbServerで集められた情報は、UsbServerの本体プログラム下のLOGフォルダに保存されます。
例) C:\Program Files(x86)\UsbServer\LOG

■ランキング

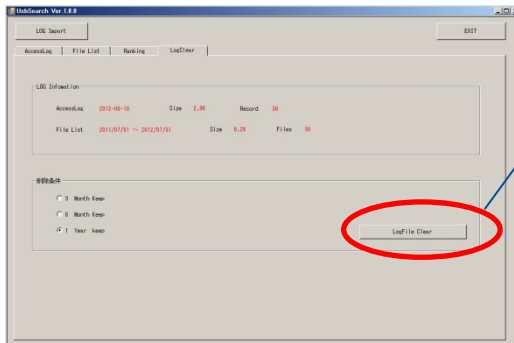
HYPER PLUSの利用ランキングで利用回数の多い順に表示します。



集計はUSBメモリの固定情報(シリアル番号)で行っています。ボリューム名を変更しても結果は変わりません。

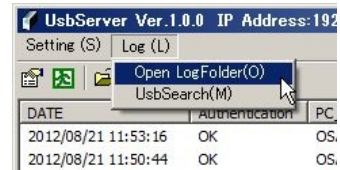
■Log Clear

LOGフォルダのファイル名一覧のログデータを削除します。
LOGファイルはテキストファイルの為、それほどハードディスク容量を圧迫しません。管理するHYPER PLUSの本数が
多い場合、利用頻度が高い場合、保存されているファイル数が多い場合は定期的にログの削除を行います。



クリックすると過去のファイル名一覧を削除します。

ログのバックアップを行ってから削除したい場合は
UsbServerの[Log]→[Open LogFolder]より行って下さい。



ここで削除できるLOGファイルは、ファイル名一覧のログ情報だけです。
Access.logは削除されません。Access.logの削除はUsbServerが起動している状態ではファイルロックされているので削除ができません。削除する場合は、LOGフォルダを表示後、一旦UsbServerを終了させてから手動で行って下さい。

製品仕様1 UsbServer

項目	説明
製品名	UsbServer Ver1.0 UsbSearch Ver1.0
.NET Framework	.NET Framework 3.5以上 (UsbSearch)
通信プロトコル	TCP/IP
初期ポート番号	30112
承認コード	管理パスワード
対応OS	Windows XP SP2以上 , Vista , Windows 7 (32/64) ※64bit対応はWindows7のみ
用途	HYPER PLUS USBメモリの管理

設定までの流れ

本USBメモリは保護領域と非保護領域の2つの領域があります。コンテンツは保護領域へ保存します。
非保護領域(2M)はとても小さな領域で空き容量がほとんどありません。コンテンツを保存するには適しません。
付属ソフトを使い、保護領域の切り替えやコピー禁止の設定を行います。

■主な付属ソフト

UsbStart.exe	保護領域に切り替えます。USBメモリを挿入すると初めに実行するソフトです。
UsbBack.exe	保護領域→非保護領域に切り替えます。
Usb安全な取り外し.exe	Windowsの安全な取り外し機能呼び出します。

取り扱いのご注意・サポートについて

■安全にご使用いただくために

- 本製品の分解、改造、修理をおこなわないでください。保証の対象外となります。
- 水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
- 本製品の取り付け、取りはずしのときには、本製品に触れる前に金属製のもの(スチールデスク、ドアのノブなど)に手を触れて、静電気を除去してから作業をおこなってください。静電気は本製品の破損の原因になります。

■ご使用にあたって

- **本製品は特殊フォーマットで初期化されています。通常のフォーマット作業は行わないで下さい。**
- 本製品を電源のついているパソコンから取り外す場合は「ハードウェアの安全な取り外し」を操作を行ってください。正しい手順で取り外されない場合はファイルの破損や次のアクセスができなくなる可能性があります。
- 本製品をはじめてパソコンに挿入した場合、認識されるまでに約1〜2分ほど時間がかかる場合があります。しばらくお待ち下さい。
- 本製品の保証はハードウェア部分のみになります。製品の不具合により消失・破損したデータや間接する費用に関しては、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本製品を湿気や埃の多いところで使用しないでください。
- 本製品に強い衝撃を与えないでください。
- お手入れの際には乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
- キャップやUSB接続口の差し込みが硬くなった場合は市販のシリコンスプレーなどの潤滑油を少量塗って下さい。
- 本製品にはデータの保持期間と書き込み回数に寿命があります。
- 本製品の利用にはWindowsXPサービスパックSP2以上を適用して下さい。
- パソコン側のUSB接続口が緩いまたは硬い場合があります。無理にUSBメモリを挿入すると接続不良や抜けなくなる場合があります。そのような場合は他のUSB接続ポートを使用して下さい。

- 本マニュアルの一部又は全部を配布・流用する場合は必ずアブロードシステムズ社の許可を得て下さい。
- 本製品の内容は予告なく変更される事があります。

[サポート]

本製品のサポートは電話での受付を行っておりません。ご質問内容をFAXまたは電子メールなど文章でお送り下さい。ご回答はできるだけ早急に当社担当者より電話またはメールなどでご回答を差し上げます。

お送り頂きたい内容

- ① お使いの製品名: UsbServer Ver1.0
- ② ご利用のOS
- ③ ご質問内容
- ④ お客様ご連絡先

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-3-1高砂ビル4F

株式会社アブロードシステムズ

E-Mail info@abroad-sys.com FAX 03-3518-0607

※英語のエラーメッセージが表示されている場合は付属表でご確認下さい。

※日本語以外の質問はメールで件名を“USB Memory”としてお問い合わせ下さい。

한국어에서의 질문은 메일로의 대응이 됩니다. 건명에 “USB Memory”로써 주십시오.

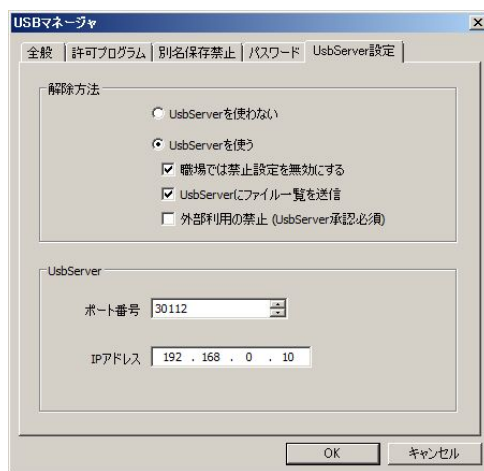
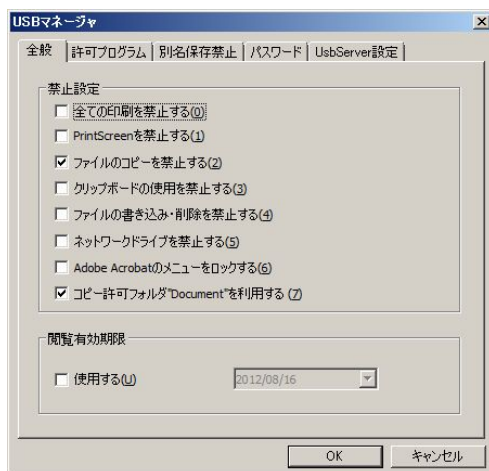
使用中国語提问请使用电子邮件，电子邮件的标题请使用“USB Memory”

info@abroad-sys.com

Hyper+/HyperGuard Security /Contents Guard USB Memory はAbroad Systems, inc.の製品及び商標です。本製品にはKASHU SYSTEM DESIGN INC.及びFROMD Co., Ltd.が開発したソフトウェアが含まれています。WindowsXP/Vista/7及びExcel/Word/PowerPointはMicrosoft Corporationの製品及び商標です。Acrobat/Adobe Reader/PDFはAdobe Systems Incorporatedの製品及び商標です。一太郎/花子/三四郎/AgreeはJustSystems Corporationの製品及び商標です。その他本説明書に記載されている会社名、製品名は各社の製品及び商標です。

コピーガード機能の設定例

用途	設定
■持ち帰りでコピーガード 職場内では制限なし(読み書き自由) 自宅、外出先ではコピー禁止、上書き更新を許可	UsbServer使うON 職場では禁止設定を無効にするON コピー禁止ON 書き込み禁止OFF
■会社専用、持ち帰り禁止 職場内では制限なし(読み書き自由) 外部では利用禁止	UsbServer使うON 職場では禁止設定を無効にするON 外部利用を禁止ON
■コピーガード、閲覧専用 職場や外部でも制限を変えない 追加、削除は常にOK コピーは常に禁止 閲覧・配布用	UsbServer使うOFF コピー禁止ON 書き込み禁止OFF
■データ受け渡し用、 普段は社内用USBメモリとして 業者間のデータの受け渡しがある場合 見せたくないデータは一時的に非表示にする	UsbServer使うON 職場では禁止設定無効ON コピー禁止ON 書き込み禁止OFF コピー許可フォルダ”Document”利用ON (データは”Document”で受け渡す) UsbStealthでファイルを非表示にする
■USBメモリに保存されているファイルを集中管理 持ち出し禁止ファイルの管理 USBメモリ内のファイル検索	UsbServerにファイル一覧を送信ON UsbSearchで表示・検索 ※ログ解析ですのでUSBメモリが接続されていない場合でも 検索が可能です。
■秘密情報の保管 特定のPCでしか閲覧できない	UsbServer使うON パスワード設定 利用するUSBとパソコンのネットワークを別に設定する →P.19を参照



UsbServerを使った特殊設定 特定のパソコンだけ使えるUSBメモリの作成

この設定にはIP番号とサブネットマスクの知識が必要です。同じネットワーク内しか通信ができないという特性とIP番号は複数設定できる事を利用して、特定のパソコンしか使えないUSBメモリを作成できます。

設定方法は ①USBメモリの「UsbServer承認必須」をONにする ②利用パソコンにIP番号を2つ設定する③利用するパソコンにUsbServerを設置する の3つを行います。

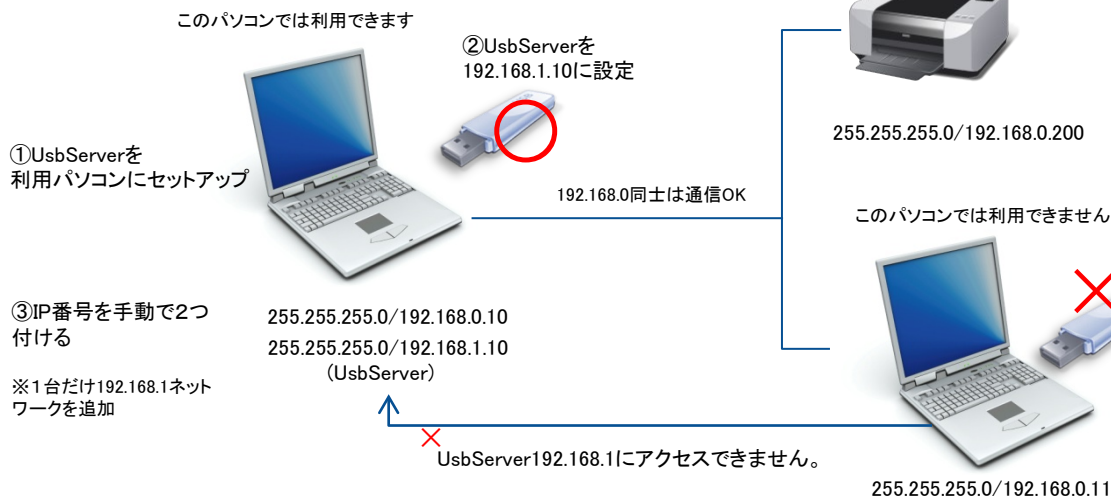
学校や会社などで複数のパソコンがある場合は、社内で通信する為にローカルアドレス 192.168.0から始まるIP番号が設定されています。先頭の192.168.0は特に強い取り決めはなく各パソコンが同じ設定であれば数字を変更してもかまいません。サブネット255.255.255.0の場合、192.168.0.0～19.168.0.255まで設定できますので256台のパソコンを管理できます。192.168.0がつけられたパソコンは192.168.1のパソコンとはネットワークが違っているので通信ができません。特定のパソコンだけ使えるUSBはこの仕組みを利用します。

つまり、USBメモリを使えるネットワークを分ける事で他のパソコンからUsbServerのアクセスをできなくします。

ただし、違うネットワークにしてしまうとネットワークプリンタやインターネット通信ができなくなってしまうので2つのIP番号を設定します。

※一般的にネットワークを分ける理由は、例えば2階と3階でオフィスが分かれている場合に2階と3階を同じネットワークにすると余計なデータパケットが流れて通信が遅くなってしまう事やセキュリティ上の都合でネットワークを分けて管理をします。

利用パソコンにIPを2つ設定する



※上記の例では1台のパソコンですが同じサブネット(192.168.1.XXX)にすると複数PCで利用できます。

※この設定はネットワークの知識が必要な為、ネットワークの管理担当者にご相談下さい。

サブネットマスク: 同じネットワークと識別する値

255.255.255.0の場合、上位24bit(8bit x 3)を同じネットワークとして識別します。

255.255.255.0

192.168.0.0

サブネットマスクが255.255.255.0の場合
この部分の数字なら同じネットワーク

※グローバルアドレスはプロバイダの指定がありますので変更はできません。192.168で始まるローカルアドレスは社内だけで利用する通信の為、自由に設定できます。ただし、他のパソコンと共有するフォルダやネットワークプリンタの関係がありますので正確な知識を持った方が設定される事を推奨致します。

■サブネットマスクと通信

サブネットマスク255.255.255.0は

2進数になおすと

11111111.11111111.11111111.00000000

になります。先頭から24桁が1になるのですが意味は先頭24bitが同じであれば同じネットワークとして通信ができます。先頭24bitが違えば違うネットワークとして判断するという意味になります。

学校や大企業で256台以上のパソコンを管理している場合やフロアや建屋がわかれている場合は、サブネットマスクが255.255.0.0になっていると思います。このクラスではネットワーク管理者が必要なレベルです。管理者にご相談下さい。